

<水泳指導：寒さという弱点>

3月の終わりに任地から9時間ほど離れた街で大会があり、引率してきました。エクアドルは地域によって標高に差がありますが、当然天候にも同じことが言えます。大会期間中は雨が続き、室内プールだった会場は水温が低く、とても泳げる環境ではありませんでした。日本には春夏秋冬と四季があります。ここマチャラは夏しかありません。少し詳しく言うと乾期と雨期に分けられるのですが結局一年中夏です。前回、私の配属先の選手たちには標高という敵もいると書いたのですが、天候という敵もいました。タオルや着替えを持ってきていない選手や準備運動を平気で怠る選手。数日あった大会の途中で選手達の不調の原因がわかり反省しました。中には自己新記録を出す選手もいました。しかしそういう選手は多くの種目に出ており、休憩時間が短かったことが記録更新にたまたま繋がったのだと思います。全体的な結果としてチームは準優勝をすることができました。この大会はトレーニングの一環で参加したので4月の後半に行われる本番に向けた弱点発見の糸口になればいいなと思います。



<ガラパゴス：動物と環境>

ガラパゴス諸島の名前は世界的にも有名で、ダーウィンが進化論を思いついた場所です。このガラパゴス諸島がエクアドルにあると知っていた人はどれくらいでしょうか。年末年始に大型の休暇が取れたので旅行してきました。

普段は見れない動物をたくさん見ることができました。ゾウガメ、グンカンドリ、アオアシカツオドリなどなど。海に浮かぶ廃船に住むアシカや襲ってこないサメも見ました。中でもイグアナの存在が際立っていました。エクアドルには陸イグアナ、海イグアナ、ハイブリットイグアナ(?)が住んでいます。土地柄に合わせて進化したそうでそれぞれ色が異なります。ハイブリットイグアナは陸イグアナと海イグアナから生まれ最近発見された新種で、出会うのが難しいらしいです。今回は出会えませんでした。泳ぐことのできるイグアナは世界中でここにしか生息していないそうです。イグアナは基本的に集団で行動するそうで知らない動物が現れると顎をがくがくさせて威嚇を始めます。爬虫類なので初見では少し怖いですが、島のあちこちで見慣れてくるとかわいいものでした。しかし、法律でイグアナに触れることは禁止されています。

仕方ありません。彼らを含めてガラパゴス諸島は世界遺産です。土地開発事業で多くの自然が破壊されている世の中ですが、後世に残しておけるような遺産もやはり必要だと感じました。見るだけでも感動的で素晴らしいものは多いです。ですがそれだけでは勿体ない。海イグアナは、陸に餌が無かったため海に潜ることで食料を見つけた陸イグアナが進

化したもの、というように勉強の機会を与えてくれるのも世界遺産です。

島内では基本的に船を使った移動です。乗り物にめっぽう弱い私は、移動中ずっとぐったりしていました。現役とまではいかないですが、今も泳いでいるのでシュノーケリングの時だけは元気でした。水を得た魚とはこういうことを言うのですね。いい気分転換になりました。



←気持ち良さそうに眠るアシカ

大きなくちばしのペリカン→



←海イグアナの親子

→陸イグアナ



←大晦日のカウントダウンの後。
ガラパゴスは観光客がたくさん来ます。たとえそこが世界遺産の場でも散らかし放題。目を疑いました。

<プールサイド教室：東日本大震災>

エクアドルで迎える3月11日は震災から3年目の年でした。震災直後も2年目も、そして今年もプールで指導をしていました。

ある日、生徒の1人が震災のことで質問をしてくれました。そのことがきっかけで3月11日は練習前に震災に関するちょっとした話をするに。拙い僕のスペイン語に助け舟を出してくれたのか、生徒の一人が全体の前で写真を一枚一枚見せながら説明をしてくれました。普段はなかなか静かにしてくれない生徒たちですが、この時はしっかりと話を聞いている

様子が見てとれました。言葉も世代も国境も越えて、伝えられることはあるんだと気づかされました。

その日以降、震災のことにに関して質問してくる子が増えました。震災当時は大学のある京都にいました。被災地から遠く離れた場所で何ができるのか悩んだ時期がありましたが、こういう形で当時の答えが見つかって心のつかえがとれたように思います。今回の機会や気づきを与えてくれた子供達に感謝です。

エクアドル時間の4月1日の夜、チリで大きな地震が起きました。エクアドルを含めた太平洋側に位置する中南米の国には津波警報が出され、ボランティアには自宅待機が命じられました。帰宅後にステイ先のお父さんが情報を教えてくれたのですが、「もし津波が来たらどこに避難するの？」という問いに「どこに逃げる場所があるんだ？」と逆に聞き返されました。これには少し驚きました。ここは標高0mの土地なので大きな津波に襲われたらひとたまりもない、という意味ではなくて言葉通り指定された避難場所が無いそうです。地震が起きたことよりも、カルチャーショックでした。エクアドルには自然がたくさんあります。活火山も珍しくなく、噴火の影響で出入り禁止の区域があります。日本では当たり前な避難所や避難施設が無く、万が一の時にどう対応するのでしょうか。



←この風景の動画があるのですが、そちらは記載する方法がわからないので写真を添付いたします。